

令和6年 保育士試験(後期)及び  
国家戦略特別区域限定保育士試験問題

保 育 原 理

(選択式 20 問)

指示があるまで開かないこと

【注意事項】

各問題の正答数は、問題文中に示される。

問題文中に示された正答数と異なる数を解答すると、不正解になる。

【例題1】

問1 次のうち、○○に関する記述として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ………
- 2 ………
- 3 ………
- 4 ………
- 5 ………

正答が「2」である場合は、マークシートの「②」を塗りつぶしていれば正解になる。

問題番号	解 答 番 号
問 1	① ● ③ ④ ⑤

問題文中に示された正答数と異なる数を塗りつぶすと不正解になる。

問題番号	解 答 番 号
問 1	① ● ● ④ ⑤

【例題2】

問2 次のうち、○○に関する記述として、正しいものを3つ選びなさい。

- 1 ………
- 2 ………
- 3 ………
- 4 ………
- 5 ………

正答が「2」「3」「5」である場合は、マークシートの「②」「③」「⑤」を塗りつぶしていれば正解になる。

問題番号	解 答 番 号
問 2	① ● ● ④ ●

問題文中に示された正答数と異なる数を塗りつぶすと不正解になる。

問題番号	解 答 番 号
問 2	① ② ● ④ ⑤

問題番号	解 答 番 号
問 2	① ② ● ④ ●

解答用紙に「記入上の注意事項」が記載されているので併せて確認すること。

問1 次の文は、「保育所保育指針」第5章「職員の資質向上」の一部である。( A )～( D )  
にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

職員が日々の保育実践を通じて、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上を図るとともに、保育の課題等への共通理解や( A )を高め、保育所全体としての保育の( B )の向上を図っていくためには、日常的に職員同士が( C )に学び合う姿勢と環境が重要であり、職場内での( D )の充実が図られなければならない。

【語群】

ア 主体的	イ 同僚性	ウ 内容	エ 協働性
オ 質	カ 研究	キ 批判的	ク 研修

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | イ | ウ | ア | カ |
| 2 | イ | オ | キ | ク |
| 3 | エ | ウ | キ | ク |
| 4 | エ | オ | ア | ク |
| 5 | エ | オ | キ | カ |

問2 次のうち、保育士に関する記述として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 保育士資格は、「社会福祉法」に規定された国家資格である。
- 2 保育士としての登録は市町村が行い、その後、保育士資格が交付される。
- 3 保育士は、保育士の信用を傷つけるような行為をしてはならない。
- 4 保育士の業務を離れた後においても守秘義務を課される。
- 5 保育士資格取得後、7年以内に「保育士等キャリアアップ研修」の受講が義務づけられている。

問3 次のうち、認定こども園に関する記述として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A 幼保連携型認定こども園は学校であり、児童福祉施設ではない。
- B 幼保連携型認定こども園は、地域における子育て支援を行う機能を備えている。
- C 幼保連携型認定こども園に入園できるものは、満1歳以上の児童である。
- D 幼保連携型認定こども園には、園長及び保育教諭を置かなければならない。
- E 認定こども園でないものは、認定こども園という名称又はこれと紛らわしい名称を用いてはならない。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	×	○	○
2	○	○	×	×	×
3	×	○	×	○	○
4	×	×	○	○	×
5	×	×	○	×	○

問4 次の(a)～(e)の下線部分のうち、「保育所保育指針」第1章「総則」1「保育所保育に関する基本原則」の一部として、誤ったものを1つ選びなさい。

保育所における保育士は、(中略) (a) 保育所の役割及び機能が適切に発揮されるように、(b) 専門性に裏付けられた (c) 専門的知識、技術及び判断をもって、子どもを保育するとともに、(d) 子どもの保護者に対する保育に関する (e) 指導を行うものであり、その職責を遂行するための専門性の向上に絶えず努めなければならない。

- 1 a
- 2 b
- 3 c
- 4 d
- 5 e

問5 次のうち、「保育所保育指針」に照らし、保育所に第三者（外部）の視点を活用することについての記述として、不適切なものを1つ選びなさい。

- 1 保護者の苦情などに対し、保育所が独自に解決策を検討・判断せず、外部にその解決を委ねることが必要であり、そのため中立・公正な第三者を関与させなければならない。
- 2 保育所において第三者評価が必要とされる根拠は、「社会福祉法」第78条において「社会福祉事業の経営者は、自らその提供するサービスの質の評価を行うこと」と規定されていることにある。
- 3 保育所における自己評価を行う際には、第三者評価基準の視点を導入するなど、既存の評価項目を参考にすることも、有効な方法の一つである。
- 4 第三者評価を受ける前の自己評価に職員一人一人が主体的に参画することで、職員の意識改革や協働性が高まることが期待できる。
- 5 第三者評価結果を保護者へ報告することによって、協働体制を構築することが期待できる。

問6 次の表は、「保育所保育指針」第1章「総則」4「幼児教育を行う施設として共有すべき事項」(2)「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の一部から作成したものである。(A)～(D)にあてはまる語句の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

表

(A)	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
(B)	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
(C)	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。
(D)	保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

- ア 豊かな感性と表現
- イ 道徳性・規範意識の芽生え
- ウ 言葉による伝え合い
- エ 自立心
- オ 思考力の芽生え
- カ 社会生活との関わり
- キ 協同性
- ク 健康な心と体

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | オ | イ | ア | ウ |
| 2 | オ | エ | ク | ウ |
| 3 | カ | イ | ア | キ |
| 4 | カ | エ | ア | ウ |
| 5 | カ | エ | ク | キ |

問7 次の文は、「保育所保育指針」第2章「保育の内容」4「保育の実施に関して留意すべき事項」の一部である。( A ) ～ ( D ) にあてはまる語句の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- ・ 子どもの心身の ( A ) 及び活動の実態などの ( B ) を踏まえるとともに、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助すること。
- ・ 子どもの健康は、生理的・身体的な育ちとともに、自主性や社会性、豊かな ( C ) の育ちとがあいまってもたらされることに留意すること。
- ・ 子どもが自ら周囲に働きかけ、試行錯誤しつつ自分の力で行う活動を見守りながら、適切に ( D ) すること。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	発達	個人差	感性	援助
2	成長	成育歴	言葉	指導
3	発達	成育歴	言葉	援助
4	成長	個人差	感性	指導
5	成長	個人差	言葉	援助

問8 次のうち、「保育所保育指針」第1章「総則」、第2章「保育の内容」に照らし、保育の「ねらい」及び「内容」として、適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A 「ねらい」は、第1章「総則」に示された保育の目標をより具体化したものであり、子どもが保育所において、安定した生活を送り、充実した活動ができるように、保育を通じて育みたい資質・能力を、子どもの生活する姿から捉えたものである。
- B 第1章は「養護」に関わる「ねらい」及び「内容」、第2章は「教育」に関わる「ねらい」及び「内容」を示しており、保育の実施において、養護と教育がそれぞれに展開されていく。
- C 「内容」は「ねらい」を達成するために、子どもの生活やその状況に応じて保育士等が適切に行う事項と、保育士等が援助して子どもが環境に関わって経験する事項を示したものである。
- D 「乳児保育に関わるねらい及び内容」は、「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」の3つの視点が示されている。
- E 「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」は、「3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」と同じく5領域としてまとめ、示されている。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	×	○	×
2	○	○	×	×	○
3	○	×	○	○	○
4	×	○	○	×	×
5	×	×	×	×	○

問9 次の文は、「保育所保育指針」第1章「総則」(2)「指導計画の作成」の一部である。  
( A ) ~ ( C ) にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを1つ  
選びなさい。

指導計画においては、保育所の生活における子どもの発達過程を見通し、生活の連続性、( A )  
の変化などを考慮し、子どもの実態に即した具体的なねらい及び内容を設定すること。また、具体的  
なねらいが達成されるよう、子どもの( B )する姿や発想を大切にして適切な( C )を構成  
し、子どもが主体的に活動できるようにすること。

【語群】

ア 生活	イ 計画	ウ 遊び	エ 関係
オ 社会	カ 環境	キ 季節	ク 発達

(組み合わせ)

- |   | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 1 | ウ | ア | イ |
| 2 | オ | ク | エ |
| 3 | オ | ク | カ |
| 4 | キ | ア | イ |
| 5 | キ | ア | カ |



問10 次のうち、日本の保育の歴史に関する記述として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 1926（大正15）年に幼稚園に関する最初の勅令として「幼稚園令」が公布された。そこでは、幼稚園の目的を「家庭教育を補う」とし、特別な事情がない場合は5歳から尋常小学校就学前の子どもが入園できるとされた。
- 2 1948（昭和23）年に文部省は「保育要領」を発行した。これは幼稚園における教師に向けて書かれており、保育所などでの保育は想定されていなかった。
- 3 1965（昭和40）年に初めて「保育所保育指針」が策定され、保育所保育の理念や保育内容・方法等が体系的に示された。
- 4 1990（平成2）年に改訂された「保育所保育指針」では、保育内容について従来の6領域から5領域に整理された。
- 5 1999（平成11）年に再度改訂された「保育所保育指針」では、体罰の禁止や乳幼児のプライバシーの確保など、子どもの人権を尊重するための具体的な事項が新たに明記された。

問11 次の【I群】の記述と【II群】の人名を結びつけた場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

【I群】

- A フランスに保育施設を開設した。そこでは幼児に良い生活習慣、道徳、標準フランス語、歌などを教えた。
- B イギリスで経営する工場の労働者家族のために教育施設を開設し、そこに「幼児学校」を置いた。
- C 強い使命感をもつ牧師であり、赴任地の村に道路を敷設したり農法を改良したりするなど、村民の生活向上も目指した。
- D 自著の『新社会観』では、人間の性格は環境に根差すものであり、環境を改善すれば人間はより良く形成されるとする人間観を描いた。
- E イタリア北部の地方で実践されているプロジェクトと呼ばれるテーマ発展型の保育方法を推進し、日本を含め世界の保育に影響を与えた。

【II群】

- ア オーベルラン（Oberlin, J.F.）
- イ オーエン（Owen, R.）
- ウ マラグッツィ（Malaguzzi, L.）

（組み合わせ）

- |   | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | イ | ア | イ | ウ |
| 2 | ア | イ | ウ | ア | ウ |
| 3 | ア | ウ | ア | イ | イ |
| 4 | イ | ア | ウ | ア | ウ |
| 5 | ウ | イ | ア | ウ | ア |

問 12 次の文は、「保育所保育指針」第 2 章「保育の内容」2「1 歳以上 3 歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」オ「表現」の一部である。( A ) ~ ( D ) にあてはまる語句の正しい組み合わせを 1 つ選びなさい。

- ・ 子どもの表現は、遊びや生活の様々な場面で表出されているものであることから、それらを積極的に受け止め、様々な表現の仕方や ( A ) を豊かにする経験となるようにすること。
- ・ 身近な ( B ) や身の回りの事物に関わる中で、( C ) 経験が得られるよう、諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや ( D ) を用意するなど保育の環境を整えること。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	感性	自然	発見や心が動く	素材
2	想像力	人	物の性質や仕組みに気付く	教材
3	想像力	自然	発見や心が動く	教材
4	感性	人	発見や心が動く	素材
5	感性	自然	物の性質や仕組みに気付く	素材

問 13 次のうち、「保育所保育指針」第 2 章「保育の内容」1「乳児保育に関わるねらい及び内容」(3)「保育の実施に関わる配慮事項」に関する記述として、不適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 担当の保育士が替わる場合には、子どもへの関わりが保育士等によって急激に変わることはないように配慮する。
- 2 疾病・異常などの発見のため、子どもの健康状態の観察は、複数の職員で行うようにする。
- 3 子どもの欲求にできるだけ応答できるように、特定の保育士等と密接に関わることができるように工夫する。
- 4 嘱託医と連携を図り、栄養士及び看護師等が配置されている場合には、その専門性を生かして対応する。
- 5 保育所での生活の連続性を図るために、家庭における食事や排泄を保育所での方法に合わせるよう保護者に指導する。

問 14 次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

0歳児クラスのKちゃん（生後8か月、男児）は保育所に入所したばかりである。Kちゃんは、初めてのことに慎重で、他の子どもへの興味はまだあまりない。なかなか環境に慣れず、担当保育士が抱っこをしていないと泣くことが多く、何をしても少し不安な表情をする。食事でも離乳食を進めているが、Kちゃんはすすんで食べようとはせず、椅子に座るのも嫌な様子である。

【設問】

次のうち、Kちゃんへの担当保育士の対応として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A Kちゃんが求めるときは、安心するように十分に抱っこをして応える。
- B 担当保育士も子どもと一緒に食事をするを通して、Kちゃんの好き嫌いや食事のペースを把握する。
- C 食事については、クラスの子ども全員で一斉に食べ始めることを大切にするため、Kちゃんも必ず加われるように働きかけていく。
- D Kちゃんが早く他児と一緒に遊べるように、担当保育士はなるべく離れて見守るようにする。
- E Kちゃんのありのままの姿を受け止めていこう、Kちゃんのペースに寄り添ってみようと、保育士同士で保育方針を話し合う。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	×	×	○
2	○	×	○	○	○
3	×	○	○	○	○
4	×	×	○	×	×
5	×	×	×	○	×

問 15 次のうち、障害のある子どもに対する合理的配慮の事例として、適切な記述を3つ選びなさい。

- 1 知的障害のあるLちゃん（4歳、女児）は、他児が遊んでいる物を勝手に取り上げる、他児に暴言を吐くなどの行動が目立つが、そのことを指摘すると萎縮してしまうので、そのままにしておく。
- 2 保育所の登園時、保護者と別れることがなかなかできない状態が続く発達障害のあるM君（3歳、男児）について、落ち着くまでしばらくの期間は、保護者が保育室にいられるようにする。
- 3 脳性まひのN君（3歳、男児）は、みんなが使っているスプーンだと上手に食べられないため、柄が太くて握りやすく、角度も調整されたスプーンを使っている。
- 4 言葉がけが十分に理解できない、医療的ケアが必要なP君（5歳、男児）には、遊びや生活などのすべてにおいて保育士が先回りして支援している。
- 5 周囲の動きや音に敏感な発達障害のあるQちゃん（5歳、女児）は、みんなと同じ場所では不安を抱く場合があるため、一人で落ち着ける場所を用意しておく。

問 16 次のうち、「保育所保育指針」第1章「総則」（2）「指導計画の作成」に関する記述として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A 異年齢で構成される組やグループでの保育における指導計画の作成では、一人一人の子どもの生活や経験、発達過程などを把握し、適切な援助や環境構成ができるよう配慮すること。
- B 午睡は生活のリズムを構成する重要な要素であるので、安心して眠ることのできる安全な睡眠環境を確保するとともに、すべての子どもに一律の睡眠時間を確保するよう配慮すること。
- C 長時間にわたる保育は、子どもの発達に悪影響を及ぼすため、子どもの発達過程や心身の状態に十分配慮して、子どもの生活のリズムを保育所の日課に合わせるよう配慮すること。
- D 障害のある子どもの保育については、一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、障害のある子どもが他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置づけること。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | × | ○ | × |
| 5 | × | × | × | ○ |

問 17 次のうち、「保育所保育指針」第 4 章「子育て支援」(1)「地域に開かれた子育て支援」に関する記述として、適切なものの組み合わせを 1 つ選びなさい。

- A 保育所は、「児童福祉法」第 48 条の 4 の規定に基づき、その行う保育に支障がない限りにおいて、地域の保護者等に対して、子育て支援を積極的に行うよう努めることが求められている。
- B 地域の子どもに対する一時預かり事業などの活動を行う際には、一人一人の子どもの心身の状態などを考慮することが求められている。
- C 地域の保護者等への就労支援や健康に関する支援を行うことが求められている。
- D 相談の質を向上させるためには、保育士等は地域の保護者等との間で公正・中立な関係を維持し、決まった時間や場所において相談に応じることが求められている。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 C D

問 18 次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

**【事例】**

S 保育所の 5 歳児クラスでは、発表会でダンスをすることになった。発表会当日、ダンスの様子を見ていた R 君の母親は、我が子がうまくダンスを踊れていないことに驚いていた。ダンスの発表が終わった後、R 君の母親が担当保育士に「うちの子は、いつもうまく踊れていると言っていたので、もう一度別の日にダンスの発表会を行ってほしい」と興奮した様子で伝えてきた。

**【設問】**

次のうち、「保育所保育指針」第 4 章「子育て支援」に照らし、担当保育士の今後の対応として、適切な記述を 2 つ選びなさい。

- 1 R 君の母親の意見は親として当たり前の要求だと考え、その場で別の日にダンスの発表を行うことを約束する。
- 2 他の保護者も同じように考えているかもしれないので、R 君の母親の意見を他の保護者にそのまま伝える。
- 3 R 君の母親の意見を受けて、施設長や主任などと話し合っ返答することを約束する。
- 4 R 君が家で話している内容は、子どもの言うことなので、言葉通りに受け止めないように母親に伝える。
- 5 R 君が楽しんでダンスの練習に取り組んでいたことを伝え、これまでの R 君の成長の過程に母親が気付けるようにする。

問 19 次の文は、「保育所保育指針」第 1 章「総則」(5)「保育所の社会的責任」の一部である。

( A ) ~ ( D ) にあてはまる語句の正しい組み合わせを 1 つ選びなさい。

- ・ 保育所は、子どもの人権に十分配慮するとともに、( A ) を尊重して保育を行わなければならない。
- ・ 保育所は、( B ) との交流や連携を図り、保護者や ( B ) に、当該保育所が行う保育の ( C ) を適切に説明するよう努めなければならない。
- ・ 保育所は、入所する子ども等の個人情報適切に取り扱うとともに、( D ) の苦情などに対し、その解決を図るよう努めなければならない。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	子ども一人一人の人格	地方自治体	内容	近隣住民
2	子ども一人一人の人格	地域社会	目標	保護者
3	子どもの保護者の人権	地域社会	内容	近隣住民
4	子どもの保護者の人権	地方自治体	目標	保護者
5	子ども一人一人の人格	地域社会	内容	保護者

問 20 次のうち、「保育所等関連状況取りまとめ (令和 5 年 4 月 1 日)」(こども家庭庁)における保育所等の状況について、適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを 1 つ選びなさい。ただし、ここでいう「保育所等」とは、従来の保育所に加え、平成 27 年 4 月に施行した子ども・子育て支援新制度において新たに位置づけられた、幼保連携型認定こども園等の特定教育・保育施設と特定地域型保育事業 (うち 2 号・3 号認定) を含むものとする。

- A 待機児童数は、令和 3 年に比べて減少した。
- B 保育所等を利用する児童の数は、令和 3 年に比べて増加した。
- C 保育所等の施設数は、令和 3 年に比べて増加した。
- D 1・2 歳児の保育所等の利用児童数を当該年齢の児童数で割ったものの割合 (保育所等利用率) は、令和 3 年に比べて減少した。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	○	○
5	×	×	○	×